



県北教育事務所 社会教育だより

つながれ KENPOKU

令和7年9月4日 発行

今回は、福島市学習センター訪問の第2弾として信陵学習センターと北信学習センターの取組についてお伝えします。

福島市学習センター訪問

7月18日 信陵学習センター 7月25日 北信学習センター

【信陵学習センター】



【住民が主役の学習センターを目指し】

社会の変化に対応し、住民のニーズの把握に努めるとともに、地域性の異なる笹谷地区、大笹生地区双方の現状を踏まえた「住民が主役の学習センター」を運営しています。特に学習センター周辺は、宅地造成が進んでおり、今後子育て世代のニーズが高まることが予想されます。一般講座では「離乳食講座」を複数回開催するなど、住民のライフステージに応じた運営に心がけています。また、地域人材の発掘にも取り組んでおり、各講座の講師をお願いしています。地域の関係機関や団体との連携を図り、特に小中学校や支援学校との連携・協働に力を入れた運営を行っています。

【北信学習センター】



【顔の見える学習センターを合言葉に】

「顔の見える学習センター」を合言葉に全職員で共通理解を図り、出会いを大切にしながら運営しています。鎌田、瀬上、余目の3行政区の地域住民のニーズに合わせて講座を開設し、男女とも楽しく参加しています。特に女性スクールでは、環境問題、戦争平和、ニューススポーツ体験など幅広い講座を実施しています。また、人権教育を学ぶ講座では、学級生が講師を努めるなど、主体的な活動も推進しています。地域の小中学校との連携・協働にも取り組んでいます。コーディネーターを配置し、卒業した小学校に出向いて地域の方々と一緒に行う「あいさつ運動」や「クリーン活動」の連絡調整を行っています。地域学校協働活動にも積極的に取り組む学習センターです。